

京都府立医科大学附属

北部医療センター(与謝の海病院)NEWS

平成27年9月

Vol.7

《病院理念》信頼される全人的医療

《基本方針》

- 患者さんが中心の安心安全な医療を提供します
- 患者さんと医療従事者のコミュニケーションを大切にします
- 個人情報の保護に努めます
- 専門性と総合性をもつ診療を行います
- 地域に開かれた病院として貢献します
- 全人的医療が行える医療人を育てます
- 地域の特性を活かした研究を推進します



北京都の安心・安全・健康な地域づくりを目指して

京都府立医科大学附属北部医療センター
病院長 中川正法
(京都府立医科大学 副学長)

京都府立医科大学附属北部医療センターは「信頼される全人的医療」を基本理念とし、1)安心安全な医療の提供、2)コミュニケーションの重視、3)個人情報の保護、4)専門性と総合性をもつ診療、5)地域に開かれた病院、6)全人的医療が行える医療人の育成、7)地域の特性を活かした研究の推進を基本方針として掲げ、患者さんを中心とする全人的医療を目指して職員全員が一丸となって取り組んでおります。この間、診療体制の充実・強化等(呼吸器内科、麻酔科などの医師の増加、地域がん診療病院の指定、救急ワークステーションの本稼働、病院機能評価の認定)、医師等の人材育成(研修環境の整備)、地域連携の推進・府民との連携(認知症疾患医療センター、重症心身障害児者ショートステイの受入、府民公開講座の開催、地元メディアを活用した健康情報等の発信)、北部医療センターの未来への整備等(産婦人科病棟の整備など)、地域の健康増進のための研究の推進(丹後生き生き長寿研究)などを行って参りました。これらの取り組みと相まって外来・入院患者さんともに増加傾向になっております。

北部医療センターは丹後地域救急診療の中核病院であり、「救急を断らない」を方針に全ての救急患者さんを受け入れています。優先して治療に当たる緊急性の高い場合も多くあります。また、当院の施設の老朽化に伴う様々な課題や駐車場の問題などもあり、皆様にはご不便をおかけする点が多々あるかと存じますが、今後も診療設備の充実、専門性と総合性を備えた医療サービスの提供などを通じて、皆様に愛される地域中核病院として更なる飛躍を目指したいと考えております。

丹後医療圏は、高齢化率34.6%(H27年3月31日現在)とわが国の超高齢社会を先取りしている地域です。京都府北部地域の特徴である“豊かな自然、豊かな人間性、長寿社会、緊密な組織間の連携”を活かして、心豊かに安心・安全に暮らせる地域社会を日本の未来を先取りする形で実現するために「まちづくりの中心に医療がある」との自負を持ち少しでも丹後地域の皆様に貢献したいと考えています。

平成27年9月吉日

【第7号の内容】

- 1ページ ● 病院長あいさつ…中川正法病院長
- 2ページ ● 府民公開講座の開催 ● 宮津中学生職場体験学習 ● 嚥下食
- 3ページ ● ナースのお仕事2…笹井智子師長 ● 一口レシピ ● 職員募集
- 4ページ ● 診察室「眼科」…畑中宏樹医長 ● 診療科紹介「精神科」…上村宏医長
- 5ページ ● 地域医療連携室「かけはし」
- 6ページ ● 外来各科診察担当医表 ● 医師異動情報



〒629-2261 京都府与謝郡与謝野町字男山481
電話/FAX 0772-46-3371(代表)
<http://nmc.kpu-m.ac.jp/>

府民公開講座の開催

第1回目は、6月14日（日）、がんをテーマに峰山総合福祉センターで開催（参加者90名）。
当センター消化器内科 高木医長から、胃がん、大腸がんの現状、ピロリ菌の除菌、内視鏡手術などについて、わかりやすく解説。

また、がん経験者の井上氏からは、ご自身の体験談から、胃がんを克服して生きることの大切さを語られました。

第2回目は、7月26日（日）、老化予防をテーマにみやび歴史の館で開催（参加者110名）。

当センター泌尿器科 問山医長から、高齢者の排尿障害、膀胱の仕組み、頻尿や尿失禁とその治療法など、聴講する機会が稀な泌尿器の話を説明。

中川病院長からは、高齢社会の現状、高齢者疾患の特徴、丹後活き生き長寿研究の概要や終活など健康長寿について講演。



宮津中学生職場体験学習

今年度、はじめて宮津市立宮津中学校の学生さんが「職場体験学習」に来られました。6月16日・17日の2日間、病棟の看護師と一緒に食事配りや車椅子移動など、日常生活援助を中心とした体験を行いました。

看護部は、医療に関心を持ち、将来医療に携わりたいとする中学生が「職場体験学習」を通して、自らの進路をさらに深く考えるきっかけづくりになれば嬉しいと思っています。



平成27年6月吉日に嚥下開発チームが患者満足度の向上に貢献したと表彰を受けました。

嚥下（飲み込む力）機能の低下した方は、食事の際「食物の飲み込みが困難」だったり、「喉につかえる」、「むせる」などの症状で普通の食事を摂るのが困難になります。そういう方のために「食物の形態を変えて食べやすく、飲み込みやすく工夫した」ものを嚥下食といいます。

当院では、「見た目がかっこいい！美味しそう！」な嚥下食を患者さんに提供したいと思い嚥下食の開発を始めました。

患者さん一人ひとり嚥下能力が違うなかで、それぞれにあった形態を段階的に開発しました。調理した食材をミキサーにかけ固形化補助食品を入れて固めたものから元の食材の色、形に再現します。繊維が多く嚥下食にするのは難しい食材にも挑戦し一日一日レベルアップを目標にがんばっています。



ナースのお仕事 2

— 笹井 智子 師長 —



質問1：看護師になろうと思った理由は

笹井：当時流行っていたテレビ番組の影響で、実は薬剤師になりたいと思っていました。諸事情で断念しましたが、医療現場への憧れが強く、看護師を目指しました。

質問2：看護師になって、印象深かったことを教えてください

笹井：小児外科病棟、集中治療室の経験を経て、皮膚排泄ケア認定看護師（人工肛門・創傷・失禁ケアを専門とする看護師）として17年間過ごしました。病院内での看護師のキャリアアップとして専門家になるという選択肢が増え、専門ケアによって、患者さん、スタッフともに満足していただける大きな喜びを体験することができました。時代の移行期に関われたことは貴重な体験だったと思います。

質問3：あなたのナースのお仕事を教えてください

笹井：院内医療安全管理者の役割を担っています。患者さんへ安全な医療の提供ができるように、医療安全対策の実施状況の把握や分析、フィードバックだけでなく、全職員とともに院内の安全文化を育てることが今の仕事です。

質問4：看護師としての今後の抱負を教えてください

笹井：医療を必要とする方々が増える一方、働き手が少なくなってくるという背景があります。在宅・病院・施設とも、患者さんに必要なケアを安全に提供するために何を選択していくのか、変化せざるを得ない問題に直面するのだらうと思います。そんな中でも、相手の思いを知ろうとする姿勢は、変わらない部分として持ち続けたいと思います。



一口レシピ 「梅ゼリー」

【材料】

- 梅ジュース 50cc ●ゼラチン 5g
- 砂糖 大さじ2 ●水 300cc

【作り方】

- 1) 材料すべてを鍋に入れて沸騰する直前まで火にかける。
- 2) コンロから下ろしてカップに流し入れる。
- 3) 冷蔵庫に2時間～3時間入れて固める。

(※梅シロップは当院中庭の梅の木から収穫した梅で作っています)



職員募集中！

当センターでは現在、正規職員(作業療法士)、期限付職員(看護師、臨床検査技師、精神保健福祉士(PSW)、理学療法士、作業療法士)、臨時職員(看護師)を募集しています。条件等についてはお気軽にお問い合わせください。

【問合せ先】 京都市立医科大学附属北部医療センター 庶務課
☎0772-46-3371 (代表)





診察室

「この季節に多い目の病気について～アレルギー性結膜炎～」

眼科 医長 はた なか ひろ き 畑 中 宏 樹



この季節に多い目の病気の一つにアレルギー性結膜炎が挙げられます。この時期に？とお思いの方も多いと思います。有名なアレルギー性疾患である花粉症、とりわけ多数の方に発症するスギ花粉症は春先（2～4月）に多い傾向にあり、実際その時期になると当院眼科にも多くの患者さんが来られます。スギ以外にも5月のヒノキ、5～6月のカモガヤ、5～9月のイネ、8～10月のブタクサなど原因となる花粉は様々です。特にこの時期イネ科植物やブタクサなどによるアレルギーが多くなってきます。このように花粉症の目の症状を花粉性アレルギー性結膜炎と呼んでいます。アレルギー性結膜炎の約85%は花粉性アレルギー性結膜炎と推定されています。予防法としては飛散している花粉に暴露

（接触）しないことが一番とされています。ゴーグル形態の花粉尘暴露予防眼鏡の使用や、市販されている人工涙液点眼などで洗眼するなどが効果的と考えられます。治療法は抗アレルギー点眼薬を使用し、重症の場合には低濃度ステロイド点眼、免疫抑制剤点眼などを使用します。実際に診察をした上で適切な組み合わせを医師が考えます。また研究データとして花粉症を迎える前から抗アレルギー点眼薬を継続使用する事でピーク時の症状が緩和される事が分かっています。ご自身でどの時期に花粉症が出るかお分かりの方は花粉症が始まる前に一度受診されてみてはいかがでしょうか。

診療科紹介

— 精神科 —

精神科 医長 かみ むら ひろし 上 村 宏



精神科で扱う病気や症状については思春期から老年期までたくさんあります。そのなかでも数の多いものをご紹介します。

- 1 「急に動悸がして、呼吸が苦しくなる」不安発作、過換気発作を起こす。
- 2 しびれ、めまい、痛み、吐き気などいろいろな症状がでて繰り返して病院で検査を受けるが「異常なし」といわれる。
- 3 もの忘れによって生活に支障をきたしている。
- 4 気分が落ち込む、何もしたくない、死にたくなるなどうつ状態が続いている。
- 5 生まれつきの知的障害があり、家族や周りの人とトラブルになる。
- 6 空耳（幻聴）や被害妄想のため生活や仕事に支障をきたしている。
- 7 幼少時から落ち着きがなく、集中が続かないため学業に支障がでたり、カッとなって感情が抑えられない。

- 8 精神疾患のある家族の養育や介護に苦勞して、疲れ果てている。
- 9 アルコールや薬物に依存していて、止めないといけないのに止められない。
- 10 更年期の自律神経症状（冷え、のぼせ、頭痛など）で悩んでいる。

精神疾患は症状を自覚できない場合もありますので、本人だけでなく、家族や職場の上司からの相談も受け付けています。受診が遅れると回復にも時間がかかりますので早めの受診や治療が大切です。なお、当院は外来だけなので入院が必要な場合は他院へ紹介します。また、福祉サービス等が必要な場合は、関係機関と連携もおこなっています。スタッフは、医師と相談員（精神保健福祉士）で、他に臨床心理士や保健師にも協力してもらっています。気軽にご相談ください。

地域医療連携室「かけはし」

当院は「在宅療養あんしん病院登録システム」に参加しています



在宅で療養中の高齢者が体調をくずして、在宅での対応が難しくなったら…。そんなときでも、スムーズに病院で受診し、必要に応じて入院ができるようにするため、あらかじめ必要な情報を登録しておくシステム、それが「在宅療養あんしん病院登録システム」です。

早めの対応により、病状の悪化や身体の働きの低下をできるだけ防ぎ、在宅生活を続けることを支援します。

●対象

在宅療養されている京都府在住の65歳以上の方。

- ・訪問診療を受けている方
- ・かかりつけ医に定期的に通院されている方

●お申込み

「かかりつけ医」(病院・診療所)にご相談ください。

●お問合せ

当院・医事課(電話 0772-46-3371(代表))

※詳しくは、京都地域包括ケア推進機構のホームページ内にある

「在宅療養あんしん病院」をご覧ください。

<http://www.kyoto-houkatucare.org/anshin-hospital/>



「がん相談支援センター」でいろんなご相談をお聞きします

がんと診断されて「どうしよう…」と不安や悩みを抱える方のために、治療のこと、生活のこと、不安な気持ちなど様々な相談に対応するために、当院には「がん相談支援センター」が設置されています。

がん専門相談員が、信頼できる情報に基づいて、がんの治療や療養生活全般の相談を、がん患者さんやそのご家族等からお受けしています。

相談は、看護師や保健師、臨床心理士が対応し、院内他職種と連携してサポートします。

●ご相談の内容

- ・がん患者さんの療養上の相談
- ・精神的なサポート
- ・治療費・生活費等の相談
- ・がん治療やがんの予防、他の医療機関等の一般的な情報の提供 など

●相談時間 月～金曜の9:00～17:00

●専用電話 0772-46-2009(直通)

※当院は、平成27年4月に厚生労働省から「地域がん診療病院」に指定されています。



外来各科診察担当医表 (平成27年10月1日付け)

診察室	診療科	月	火	水	木	金	
11	総合診療科	横井大祐 助教 (副医長)	高田博輝 助教 (医長)	高木智久 准教授 (医長)	石野秀岳 講師 (医長)	横井大祐 助教 (副医長)	
12	呼吸器内科	嶋本貴之 助教 (副医長)	大月亮三 助教 (医長)	大月亮三 助教 (医長)	嶋本貴之 助教 (副医長)	大月亮三 助教 (医長)	
13	消化器内科	1診	橋本光 医師	福井勇人 助教 (医師)	西村健 助教 (副医長)	福居顕文 助教 (副医長)	稲田裕 助教 (副医長)
		2診		(午前 予約) 西村健 助教 (副医長)	高木智久 准教授 (医長)	堅田和弘 講師 (副医長)	
14	循環器内科	谷口琢也 助教 (副医長)	宮川浩太郎 助教 (副医長)	高田博輝 助教 (医長)	有吉真 助教 (副医長)	入江大介 助教 (副医長)	
15	神経内科	山田丈弘 助教 (医長)		(第1,3 午後) 中川正法 教授 (病院長)	山田丈弘 助教 (医長)	中川正法 教授 (病院長)	
26	精神科	大矢希 助教 (医師)	上村宏 准教授 (医長)	上村宏 准教授 (医長)	上村宏 准教授 (医長)	大矢希 助教 (医師)	
23	小児科		浅井大介 助教 (副医長)	吉田秀樹 助教 (副医長)	小川弘 講師 (医長)	松井史裕 助教 (医長)	小川弘 講師 (医長)
						2診(第1,3,5 午前) 柴原康通 講師 (予約)	
18	外科	1診	伊藤博士 助教 (副医長)	中村憲司 講師 (乳腺・新患) (医長)	當麻敦史 講師 (医長)	中村憲司 講師 (医長)	落合登志哉 准教授 (副病院長)
		2診	渡邊信之 助教 (副医長)	満田雅人 助教 (医師)	山下英次郎 助教 (医師)		(第1,3) 増田慎介 医師 (第2,4) 常盤和明 特任教授
22	整形外科	1診	(第1 午前) 齊藤正純 助教 (副医長) (第2,5 午前) 吉田隆司 講師 (医長) (第3 午前) 城戸優充 助教 (副医長) (第4 午前) 細井邦彦 助教 (副医長) (第2,4 午後) 吉岡直樹 医師	齊藤正純 助教 (副医長)	城戸優充 助教 (副医長)	吉田隆司 講師 (医長)	細井邦彦 助教 (副医長)
		2診	岡田直也 医師			(午前) 岡田直也 医師	
17	脳神経外科		山中龍也 教授 (隔週) 関本達之 特任教授 (隔週)	山中龍也 教授 (隔週) 関本達之 特任教授 (隔週)	谷山市太 医師	井上靖夫 医師	
19	眼科	1診	加藤雄人 助教 (副医長)	糸井素啓 助教 (副医長)	(午前) 畑中宏樹 助教 (医長) (午後) 加藤雄人 助教 (副医長)	畑中宏樹 助教 (医長)	加藤雄人 助教 (副医長)
		2診	大槻陽平 助教 (医師)		大槻陽平 助教 (医師)	糸井素啓 助教 (副医長)	
20	産婦人科	辻哲朗 助教 (医長)	沖村浩之 助教 (副医長)	青山幸平 助教 (医師)	(1,3,5 週) 沖村浩之 助教 (副医長) (2,4 週) 青山幸平 助教 (医師)	野口敏史 准教授 (副病院長)	
24	泌尿器科	多賀英人 助教 (医長)	問山大輔 助教 (医長)	問山大輔 助教 (医長)	多賀英人 助教 (医長)	問山大輔 助教 (医長)	
25	耳鼻咽喉科	1診	信原健二 助教 (医長)	信原健二 助教 (医長)	大江雅代 医師	信原健二 助教 (医長)	齋藤敦志 助教 (副医長)
		2診		齋藤敦志 助教 (副医長)		齋藤敦志 助教 (副医長)	
21	ペインクリニック		(第2,4) 伊吹京秀 講師				
16	皮膚科	小森敏史 助教 (医長)	小森敏史 助教 (医長)	小森敏史 助教 (医長)		小森敏史 助教 (医長)	

●受付時間 ●再診(予約のある方) 午前8時から受付開始 ●初診・再診(予約のない方) 午前8時30分～11時
●閉診日 土・日曜日、祝日及び年末年始(12月29日から1月3日) 【急患は、時間外でも診察】

医師異動情報								
診療科名	転出(平成27年3月31日)	転入(平成27年4月1日)	診療科名	転出(平成27年3月31日)	転入(平成27年4月1日)	診療科名	転出(平成27年3月31日)	転入(平成27年4月1日)
副病院長	准教授 時田 和彦	—	小児科	准教授(医長) 小坂喜太郎	助教(医長) 松井 史裕	小児科	助教(副医長) 諸戸 雅治	助教(副医長) 浅井 大介
診療科名	—	昇任(平成27年4月1日)	眼 科	助教(副医長) 奥島健太郎	助教(副医長) 加藤 雄人	泌尿器科	助教(医師) 井上 裕太	助教(医師) 多賀 英人
診療部	—	准教授(担当部長) 真寄 武	泌尿器科	助教(医師) 井上 裕太	助教(医師) 嶋本 貴之	呼吸器内科	—	助教(副医長) 嶋本 貴之
診療科名	転出(平成27年3月31日)	転入(平成27年4月1日)	呼吸器内科	—	助教(副医長) 嶋本 貴之	診療科名	転出(平成27年4月30日)	転入(平成27年5月1日)
総合診療科(神経内科兼務)	助教(医長) 山口 達之	助教(医長) 山田 丈弘	麻酔科	助教(医師) 山本 志歩	助教(医師) 添田 理恵	診療科名	—	新設(平成27年6月1日)
消化器内科	助教(医長) 玄 泰行	准助教(医長) 高木 智久	呼吸器内科	—	病院教授 岩崎 吉伸	診療科名	—	昇任(平成27年7月1日)
神経内科	助教(医長) 丹羽 文俊	—	診療科名	—	医学部教授 岩崎 吉伸	診療科名	—	転入(平成27年10月1日)
外 科	助教(副医長) 石本 武史	助教(副医長) 伊藤 博士	呼吸器内科	—	—	診療科名	—	—
	助教(副医長) 本宮 久之	助教(医師) 山下英次郎	診療科名	—	—	診療科名	—	—
整形外科	助教(副医長) 吉岡 直樹	助教(副医長) 齊藤 正純	麻酔科	助教(医長) 小川 覚	講師(医長) 吉岡 真美	診療科名	転出(平成27年9月30日)	転入(平成27年10月1日)
	助教(副医長) 水野健太郎	助教(副医長) 細井 邦彦	精神科	助教(医師) 神崎 敦博	助教(医師) 大矢 希	診療科名	—	—
産婦人科	助教(副医長) 片岡 恒	助教(医師) 青山 幸平						